

東京 陵 水

賀 正
平成31年 元旦
陵水会東京支部役員一同

平成三〇年度支部総会

大成功！ 三〇〇名超えは初！
次へ繋げよう



目次

1面	平成三〇年総会	9～11面	こんにちは
2面	年頭所感・竹森支部長	12～14面	寄稿
3面	本年度・次年度総会幹事所感	15面	情報
4面	総会報告・会計報告	15～19面	同好会・同窓会・同期会報告
5～6面	記念講演要旨	19～21面	東京陵水文芸
7～9面	新人による座談会	22～23面	年会費納入者一覧
			広告・奥付



平成三〇年七月七日（土）午後四時半から上野精養軒三階「桜の間」において、東京支部総会が初めて三百名を超える出席者を迎えて開催された。

今年度の総会は大学第三〇回卒業生が主担当の当番幹事として、大学二九回卒業及び大学三一回卒業と連携しながら企画・運営に当たった。ここ数年來、同窓会及び総会は変化の途上にあり脱皮していくとの認識をもって昨年の総会（当番幹事・大学二九回）から意欲的に取り組み、今年度は「三年当番幹事制」を実現した最初の総会だった。

当番幹事に携わる年次が飲み会をやりながら「今までと同じことをやり、同じことをやって人数を増やすことが目標」で良いのか？「質」と「量」が鶏と卵のように絡みながら向上していくには？と様々なアイデアを考えた。

新卒会員も含め仕事現役の中堅・若手会員の参加者が多くは、ない現実を見て、これまでの参加者と新しい参加者がジョイントする場を目指そう！同窓会及び総会には中堅・若手会員の人間に同感覚の共有（sympathy）、情報収集、さらに協業・連携の機会提供またはこういう人達が集まって組織を作るインキュベーションの場になれる。総会出席者の「数」もさることながら、出席者の「質」の混在を實現し、異質が触れ合うことによるスパーク・化学変化をモノにできる場になり得るのでは？

「たかが出会い、されど出会い！」です。熟年会員、中堅会員、若手会員の皆様が一年に一度、青春の一時期に彦根で学生時代を過ごしたというご縁を大切にしてこれからも大いに楽しみましょう！



大30回から大31回へのバトンタッチ（今年）



大29回から大30回へのバトンタッチ（昨年）

年頭所感

東京支部長

竹森 二郎 (大19)

陵水会東京支部の皆様、新年あけましておめでとうございます。会員の皆様が、お健やかに新しい年をお迎えになられたことを、心からお慶び申し上げます。支部長を仰せつかり三回目の新年のご挨拶をさせて頂きませんが、日頃より東京支部への変わらぬご支援、ご協力を賜り御礼申し上げます。

昨年七月七日の東京支部総会&懇親会には、三〇〇名を超す会員の皆様をお迎えし、賑々しく盛会裏に開催することができました事に對し、先ずはご報告並びに御礼申し上げます。各年代の年次幹事の方々や当番幹事として開催に携わって戴いた皆様の毎年の努力が大きなエネルギーとして積み重なり結集した結果です。更に東京支部の運営の基盤であります年会費納入も、目標としておりました五〇〇名の達成が出来ました。

我々事務局の運営をしております役員の方たちとして、支部総会において上野精養軒の大ホールを一杯にする事と年会費納入の五〇〇名達成は大きな目標

でした。会員一人一人の東京支部への深いご理解とシンパシーに對して敬意と感謝の気持ちを表します。

さて、我が滋賀大学の彦根キャンパスに目を向けますと、位田隆一学長は「文理融合型大学への転換」を一大施策としてあげられ、知的活動と社会を担う人材育成を目指すこととされております。経済学部は、昨年田中英明新学部長が就任され、グローバル人材育成、英語による専門



講義、データサイエンス学部の協力下の副専攻プログラム等の改革を進めようとしていいます。又、データサイエンス学部は二年目の新入生を迎え順調に企業との連携も深まり、更に竹村彰道学部長の指揮下、大学院データサイエンス研究修士課程の前倒し設置を目標とされ、すでに認可も下り日本初のデータサイエンス研究科が、来る四月より開設の運びです。既に何度もお伝えしております通り、経済

学部とデータサイエンス学部は車の両輪として、お互いに刺激し合い、日本における先進の大学として発展するものと期待しております。

一方、過去に目をやり少し歴史を振り返りますと、二〇二三年には彦根高商創設及び陵水会設置一〇〇周年という大きな節目を迎えます。先の戦争の前に創設された彦根高商の多くの先輩の方々が、戦後の日本の復興の為に多大な貢献をされたことは言を待ちません。そして、この彦根高商の良き伝統を受け継ぎ一九四九年に新制国立大学として発足した滋賀大学、なかなか彦根キャンパスの経済学部の卒業生も、小規模ながらも経済界の各方面において活躍され、日本経済の拡大、成長の礎を築くべく活躍されてきたことも事実です。

その滋賀大学は、正に新たな元号一年目の二〇一九年五月三十一日に七〇周年を迎えます。現在、大学内においては「七〇周年記念式典」の準備が始まられており、二〇一九年六月一日(土)に琵琶湖ホテル(大津)にて開催の見込みと仄聞しております。会員の皆様には大学創立七〇周年及び彦根高商並びに

陵水会設置一〇〇周年に向け、各々参加意識をお持ちいただき、一層のご協力、ご支援をお願いする事になろうと思っております。で、何卒よろしく願います。

さて、「亥」年の今年二〇一九年ほどのような年になるでしょうか?世界の政治・経済もアメリカに始まり、英国、西ドイツ、隣国の中国とも予測が難しい混沌の一年かも知れません。何とか大波に翻弄される事の無い小波程度での乗り切りを期待したいものです。いずれにしても、東京支部の皆様には健康でお過ごしいただき、支部総会でお元気なお顔を見せて戴きますようお願いして、年頭の挨拶とさせていただきます。



クレド アドバイザーズ株式会社

代表取締役社長 門平 孝二郎 (大19回)

〒113-0034 東京都文京区湯島 2 - 4 - 3 - 403

TEL 03-6303-2455 FAX 03-6303-2456

E-mail : credo-ad@biscuit.ocn.ne.jp



.....
二〇一九年度
支部総会について

当番幹事 藤井 登 (大31)

開催概要

日時：二〇一九年七月六日(土)
午後四時半開始(予定)
会場：上野精養軒
(台東区上野公園内)

来賓並びに講演：未定

当番幹事・大学31回

(一九八三年卒業)からのご

連絡

あけましておめでとうございます。今年度当番幹事を任されました大31回藤井と申します。昨年のプレ幹事を経てついに幹事本番の年となり緊張感が増しております。我々の代も還暦間近となり第二の人生も睨みつつ大学時代を懐かしむ年代となりました。ところで、NHKチョコちゃんによると「大人になるとあつという間に1年が過ぎるのはなぜ？」という問いの答えは、「トキメキがなくなったから。」だそうです。なるほど大学時代の四年間はあんなに長く、最近の四年間はこんなに短いのか謎が解けました。東京陵水会の皆様にとって、支部総会が今年のトキメキ一件となるように同期一同で頑張つてアイデアを出し

て行こうと思ひますので、ぜひ、ご参加いただき楽しんでいただければと思います。

○来賓並びに講演者

この原稿の締め切り時点では未定であります。滋賀大学にご縁のある方を中心に来賓へのお願いや講演をしていただける方の検討をしておりますので、ご案内まで今しばらくお待ちください。

○今年のコンセプトその1

「繋がる陵水会」

支部長以下現執行部の方々のご努力や、先輩方々当番幹事の動員努力、陵水会支部のホームページから申込みが出来るなどの諸策が大きく花を咲かせ、昨年の支部総会は来賓・関係者の方も含めまして三〇〇名と初めて三〇〇名の大台に乗りました。会場内は熱気で溢れ活気ある支部総会となりました。

私たちはこの流れを止めず

に、かつ質の向上を今年の運営目標に掲げました。具体的には先輩後輩間の交流(出合い)が出来やすいように会場レイアウトや席順を工夫しようと考えております。年に1回支部総会に参加すると「新たな出合い、新たな発見があるぞ。」というトキメキを持てる会にしたいと考えています。

○今年のコンセプトその2
「開かれた陵水会」

前年の目標と同じとなりますが、引き続き女性や若手・新卒会員を含めて多くの方が交流し、懇親できる場となるよう準備を進めて参ります。「ダイバーシティ」という耳慣れない言葉があります。これは企業では「多様な人材を活かす戦略」と訳される用語ですが、東京陵水会においては幅広い年齢のさまざまな考え方を多様性として受け止めるキーワードとなることを願っています。

今年度も様々なルートを通じて参加を呼び掛けてまいります。是非、お近くの先輩・後輩またはご同期をお誘い頂いて上野の森でお会いしましょう。

四月に総会の案内状が送付される予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

平成三十年度
支部総会を振り返って

当番幹事 吉田繁喜 (大30)

昨年七月七日の七夕、上野精養軒にて三百名という過去最多の参加者を迎えて、平成最後の支部総会を盛大に開催することができました。ご参加の皆様や、

支部役員はじめご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

産経新聞社社長 飯塚浩彦氏(大29)の講演が、若手による質問コーナーも含めてご好評をいただきました。また、ご来賓は、陵水会次世代を担うNEXT10(大31回〜40回)の参加者を昨年比倍増させる目標を達成しました。一方②開かれた陵水会は、若手層と女性の参加促進(参加しやすい環境づくり)を目論見ましたが、有効な手を打つことができず掛け声倒れとなつてしまいました。

今回の支部総会から新たに採用された「当番幹事三年制」や、掲げた二つのコンセプト(①永續する陵水会と②開かれた陵水会)の取組状況を確認しながら、支部総会を振り返ってみたいと思います。

まず、「当番幹事三年制(大29〜31回)」ですが、29回の皆さんからのアドバイスにより、スムーズな総会準備が可能となりました。また、何より当日の「おもてなし力」は格段にアップしました。大31回の皆さんによる新卒会員アテンドに加えて、大29回の皆さんが若手層のテーブルに同席して、雰囲気

盛り上げていただきました。結果、陵水会として年次を超えた交流も促進することができました。実際に、今回はテーブル席順を大幅変更しました。総会のコンセプトとして掲げた①永續する陵水会について①永續する陵水会についてT10(大31回〜40回)の参加者を昨年比倍増させる目標を達成しました。一方②開かれた陵水会は、若手層と女性の参加促進(参加しやすい環境づくり)を目論見ましたが、有効な手を打つことができず掛け声倒れとなつてしまいました。「ここ滋賀」に初めてご来店いただいたことや、陵水会東京支部HPから申し込みを受け付けるなど新しい試みも実施してまいりました。これらを含めて、様々な取組みが今後の陵水会東京支部(総会)の進展に少しでも寄与することになれば幸いです。当番幹事として支部総会運営を任せていただいたことは、30回同期の絆を強め、年次を超えた交流の機会を与えていただくことになりました。また、陵水会東京支部が大学OB会としても果たしている重要性についても認識する良い機会となりました。本当にありがとうございます。

東京支部総会報告

日時：七月七日(土)

午後四時三〇分

◆会場：上野精養軒三階桜の間
◆オープニング

グリークラブOBの学歌斉唱から始まり和田博之幹事長(大19回)の開会宣言、竹森二郎支部長(大19回)の開会挨拶の後、ご来賓の滋賀大学理事副学長須江雅彦様及び滋賀大学経済学部長 田中英明様よりご挨拶と祝辞を頂戴した。

【第一部】総会

議長に鈴木重成氏(大7回)を選出。全ての議案(第一号議案・平成二十九年度活動報告並びに収支決算報告・監査報告、第二号議案・平成三〇年度活動方針並びに収支予算、第三号議案・東京支部役員の変更、第四号議案・東京支部規則の改定)が異議なく承認された。

【第二部】「講演」と滋賀県、彦根市の情報発信

・滋賀県東京本部本部長代理の三井利起様(大38回)より滋賀県情報発信拠点『ここ滋賀』(日本橋)のご紹介

・彦根市企画振興部長の馬場完之様(大32回)、まちづくり

推進室長補佐の関谷英隆様(大49回)より「彦根の近況・ふるさと納税」のご紹介

◆講演は(株)産業経済新聞社代表取締役社長飯塚浩彦氏(大29回)。警察担当の記者時代から新聞社の仕事及び産経新聞社らしい報道についてご講演。飯塚氏の機智とユーモアに富んだトークが会場を沸かせた。講演後、徳川喜則さん(大50回)と今年度新卒の上小澤圭那さん(大66回)による飯塚氏へのインタビュ形式での質疑応答が設定され、飯塚社長と若手会員のフレッシュな交流が行われた。

【第三部】懇親会

小梶清司理事長(大18回)による来賓祝詞・乾杯のご発声により懇親会がスタート。首都圏に就職した十六人の新卒者(大66回)が登壇し自己紹介と抱負を力強く述べた。詩吟同好会による『将に東遊せんとして壁に題す』の吟詠とグリークラブOBのリードによる『琵琶湖周航の歌』の大合唱で会場が熱気に包まれたところで当番幹事の交代セレモニーが行われる。大30回当番幹事(吉田繁喜代表)から次年度31回当番幹事(藤井登代表)への「引継式」で両代表が固い握手を交わした。今田淳

さん(大33回、ヨット部)のエールに続いて彦根高商歌を全員で大合唱し、箸方海三氏(大4回)の三本締めにより懇親会は幕を閉じた。

◆二次会
総会&懇親会終了の後、隣の「桐の間」に移動し「二次会」を実施。懇親会では語り尽くせなかつた思いを二次会へ持ち越し、約一三〇名の会員が参加した。懇親と交流は途切れることなく、会場は遅くまで陵水会員の熱気に包まれた。

平成二十九年度収支報告

○財産目録(単位円・以下同じ)	現金	八九、九七八	○収入の部…実績	年会費収入	一、四七九、〇〇〇
普通預金	一、五八二、三二六	總會会費収入(注三)	總會会費収入	一、七九八、〇〇〇	
郵便預金	八四九、五八四	寄付金収入	寄付金収入	一四五、〇〇〇	
定期預金	一、〇六〇、〇〇〇	新聞広告収入(注四)	新聞広告収入	二〇〇、〇〇〇	
合計	三、五八一、八八八	本部活動助成金収入	本部活動助成金収入	一四二、三〇〇	
○貸借対照表	現金預金	二五二、二八八	雑収入	一四二、三〇〇	
【借方】	基本金引当金	一、〇六〇、〇〇〇	前年度繰越金	一、九三六、八〇二	
基本金	三、五八一、八八八	計	計	五、七〇四、一七七	
前受金(注一)	六七二、〇〇〇	(注二) 郵便料金値上げの影響			
基本金	一、〇六〇、〇〇〇	(注三) 総会参加者数、二次会会費減額の影響(注四) 広告協力者減少の影響			
繰越金	一、八四九、八八八				
合計	三、五八一、八八八				



代表取締役 岡本幸博 (大25回)

株式会社 アルファプラス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-37-8 白鳥ハイツ206号
TEL (03) 5474-0593 FAX (03) 5474-0594
携帯電話 090-3220-0595 E-mail : okamoto@alpha-plus.co.jp

●平成三〇年度収支予算書

【収入の部】

年会費収入（注一）

一、五〇〇、〇〇〇

総会会費収入（注二）

二、〇〇〇、〇〇〇

寄付金収入

一五〇、〇〇〇

新聞広告収入（注三）

二四〇、〇〇〇

本部活動助成金収入

一三七、七〇〇

雑収入

五、〇〇〇

前年度繰越金

一、八四九、八八八

合計

五、八八二、五八八

【支出の部】

総会費

二、七〇〇、〇〇〇

印刷費

四一〇、〇〇〇

通信費

五八〇、〇〇〇

運営費（注四）

二〇〇、〇〇〇

広報活動費

一〇〇、〇〇〇

編集費

一五〇、〇〇〇

交通費

五〇、〇〇〇

事務用品

二五、〇〇〇

雑費

五〇、〇〇〇

次年度繰越金一、六一七、五八八

合計 五、八八二、五八八

（注一）年会費五〇〇名目標

（注二）総会参加者三〇〇名目標

（注三）広告協力者二社増加目標

（注四）陵水会活動拡充のため

「NextRyosui」等の若手支援

予算の増額

総会に出席して

支部総会に出席して

三浦 祐貴（大66）

私が今回一番印象に残ったのは、社会に出て何年も過ごした今も、滋賀大学を思っ集まっている方々が非常に多くいらつしゃったことです。社会人として大学と全く違う環境で日々慣れないことに取り組んでいる私は、まだ大学を卒業して数カ月しか経っていませんが、総会であつた同級生たちとは本当に久しぶりのように感じました。

支部総会への感想

上小澤 圭那（大66）

二〇一八年三月に滋賀大学を卒業後、就職を機に上京し、今回初めて東京支部総会に参加させていただきました。陵水会は長い歴史があり、厳格で体育会の雰囲気なのではないかと、非体育会系の私は参加に向けて正直少し心配していました。然し、実際に行ってみるとそのようなことはありませんでした。

記念講演要旨

産業経済新聞社 代表取締役社長 飯塚浩彦氏

滋賀大は金融とかメーカーへ進む方が多いのですが、TV局へ入りたくてマスコミを受験しようと思ったわけです。マスコミは十一月から本番。十月になり友達がどんどん就職が内定していく中で、私一人がポツッと就職先が決まらないという状況で、TV局を受けたり新聞社を受けたりしていました。運良くか悪くか、産経新聞に入ったというようなことです。新聞社のトップといえますとお堅い方を想像される方が多いかと思いますが、落語研究会（落研）出身です。

入社してすぐ和歌山支局へ配属され、三年半和歌山におりました。それから大阪本社へ転勤になり、配属されたのが社会部でした。警察の捜査一課というところを担当させられました。捜査一課というのは、切った、張った、殺した、火をつけた：という凶悪事件ばかりを担当するところなんです。

大阪本社へ転動した時、ちょうど江崎グリコの社長が誘拐され、解放後も怪人21面相というのが食品会社を次々と脅迫し、世間はその話題一色でした。その年の秋、滋賀県でハウス食品を脅迫した犯人がもう少しで逮捕されるところまで行つたのですが取り逃がすという事件で、身代金目的誘拐ではないのに報道協定を結んでいた。つまり記者クラブと警察当局が協力し、警察は報道機関には事実を刻々と伝えるが、協定期間中は報道はしないと協定です。私は大阪府警の記者クラブで次々入る警察無線を聞きながら、今にも捕まるかと思つていたらどこかで通信が途切れてしまい、どこで逃げたのだろうと思つていたら取り逃がしていた、という事件でした。和歌山毒物カレー事件は、私が社会部デスクの時に起きた事件です。これは前線の指揮に行きました。地区の祭りに出されたカレーを食べた四人が亡くなった事件でした。四人くらい入院しました。なかなか犯人が分からずに大騒ぎをした事件です。

同じ大学を卒業しているからという理由で、このような会にお声かけを戴き、さまざまな方とお話ができ、非常にありがたく思います、自分も、人との繋がりを大事にしてこれからの社会人生活を過ごしていきたいです。

当日は、予想以上に大きな会場に三百人ものが集まり、陵水会の結束の強さを感じました。無事に任された質問の仕事に完璧に舞台上及び直接の御挨拶の時間も戴き、過去のお仕事や今後の目標など様々なお話を聞くことができ、非常に楽しい時間を過ごすことができました。

大阪本社へ転動した時、ちょうど江崎グリコの社長が誘拐され、解放後も怪人21面相という

大きさもさることながら、ある大きな転換点でした。この事故は平成十七年四月二十五日に起きたのですが、四月一日に個人情報保護法が施行されたばかり。個人情報保護法は報道に対しては適用外なのですが、個人情報保護ということだけが強調され、取材が全然できなくなってしまうという、我々にとっでは大変大きい出来事でした。それで百七人の内、最後まで四人の方は氏名を公表されなかった。未だにその四人は名前が公表されていません。JR福知山線の脱線事故で亡くなったことになっていないのです。

新聞社というと新聞記者をイメージされる方が多いかと思いますが、新聞社の中で記者というのは半分くらいです。記者の中でも政治部とか経済部とか色々ありますので社会部というのはごく一部です。政治部では、首相番というのがいます。総理大臣と直接話してすごいなと思われるかもしれませんが、政治部の中では下っ端。官邸に誰が来た、どんな話をした、と上司に報告するというのが仕事で、政治部に入りたての記者がやる。そこから色々分かれていくのです。



記者クラブは他社の記者と同じ部屋にいて、「やあご機嫌さん」とか表向きは仲良くやってるわけですが、腹の中では抜いた、抜かれたとやり合っている訳です。記者は、何がニュースかを自分で判断してデスクに原稿を送ります。新聞記者にとっては一日二回テストがありまして、他紙に載っていない自社紙に載っていないのは負けです。一番まずいのは他社全紙に載っていない自社紙だけ載っていない、これ特落ちと言いまして、社内的には致命的なことなんです。逆に自分だけが特ダネを書く、これは非常に楽しい、気持ちがいいです。自分が書いた記事で他社の記者がその裏取り取材に走り回っているのを見る、同じ記者クラブの部屋の中で聞く訳です。楽しい。この面白さを味わってしまおうと記者をやめられなくなりまして。

現場から送ってきた原稿をチェックするのは各部のデスクです。私が大阪と東京でやった編集局長という役職は、こういう方向で行こうという大きな方針を決めるだけで、その日の編集の実務にはあまりタッチしていません。日々の紙面づくりの実務は編集長（編集局次長）がやります。そういう中で、これは書くべきか書かざるべきか迷う時があります。新聞記者をずっとやっていらなかったのですが、人事の巡り合わせで編集幹部になって去年社長をやれということになってしまいました。

私が言うのも変ですが、産経新聞は世間では右寄りとか保守とか色々言われます。創ったのは前田久吉という、大阪の新聞販売店主から身を立って、東京へ出てきて東京タワーを建てたり、参議院議員になった人です。ただ、東京に出てきたものの、新聞社の経営は苦しく、財界に支援をお願いした。当時労働運動が激しかったということもあり、健全な保守の新聞が財界関係者には求められていたと聞いています。そんなこともあり、産経新聞の論調は健全な保守、現実路線というようなことで現在もやっています。

講演のあと、飯塚社長と若手会員の質疑応答があり、その要旨もHPに掲載しています。また当日のご来賓の須江雅彦 滋賀大学理事・副学長、田中英明 滋賀大学経済学部長のご挨拶も併せて掲載しています。

（文責編集部）

（文責編集部）



Heart Tree

ハートツリー株式会社

業務内容

- ・和楽器演奏家の派遣。
- ・映画「うみやまあひだ」のプロデュース。
- ・環境に優しい企業ノベルティの販売。

お気軽にご連絡ください。

代表取締役 服部 進 (大37回)

〒106-0046 東京都港区元麻布3-10-4 Re-Flat 303
 電話：03-6804-2545 FAX：03-6893-3344
 ホームページ <http://heart-tree.com/> メール：info@heart-tree.com

新人による座談会

去る平成三十年七月七日、上野精養軒において、平成三十年度陵水会東京支部総会が開催され、その際、新たに会員となった社会人一年生の紹介が行われた。

この若手会員も支部総会時点では、社会に出て数か月という時期であったが、就職後半年以上が経過した現時点での社会に出ての感想や悩みについて聞いてみた。

注 紹介する若手職員の一部については、東京支部会員でない方も含まれています。

Dさん

就職先 貿易

現在の業務

サプライネットワーク事業部にて船舶への営業・納品

Eさん

就職先 通信

現在の業務

地方銀行、信金信組、クレジットカード会社へのネットワークやシステムの提案、設計、構築、保守

Fさん

就職先 官公庁

現在の業務

予算の取りまとめ

【現在の仕事について】

就職してからおよそ半年が経過しましたが、これまで社会人として仕事を経験して感じたことを教えてください。

Aさん 入行当初から支店長から一般行員まで皆さんが分からないことや対処に困ったことに對し、丁寧にご指導くださり、非常に働きやすい環境です。

Bさん 今年の四月より渉外課に配属となり、担当したお客様から「あなたを信じて投資信託を始めてみるわ。これから私も資産運用とかマーケットの勉強をしますね。」と仰って頂いた時は仕事の

Cさん 就職先 医薬品製造・販売

現在の業務

医療用医薬品の営業

のやりがいを感じました。Bさん 私は、自分自身の能力不足を感じています。Cさん 会社の雰囲気は悪くなく、先輩方は優しいです。Dさん うちも会社の人間関係が非常に良いです。Eさん NTTという電話やインターネット回線のイメージが強く、昔は国営だったこともあり、就職前は保守的な人が多いという印象を持っていました。しかし、入社して回線だけでなく、システム構築も行っていることやAIを含む先進的なITトレンドを含む提案を行っているという革新性も持っていると感じました。Fさん うちの、年次がものを言う縦社会です。

中で、上司や先輩の支援を受けながら、やりがいを見つけたり、自社の強みを再発見されている方もおられるようで、我々も安心しました。

それでは、次に、現在の職場に就職しようとした理由について教えてください。

Aさん 金融機関の業務に興味があり、その中でも地域やお客様と深く密着しているという点で地銀である当行を選択しました。

Bさん 私は、実力主義で評価されると感じたからです。

Cさん 医薬品に興味があったからです。

Dさん 私は、海と船への憧れから。

Eさん 私は、大学時代から、SEとして働きたいと思っていました。システム構築を行っていた企業は数多ありますが、回線とセットでシステム提案ができる点や西日本全国に拠点があり、地域活性化などの社会問題にビジネス視点から取り組んでいる点、若手社員の育成体制が整っている点などに魅力を感じ、NTT西日本を選びました。

Fさん 私は元々、公務員になりました。

就職活動をする際には、自分がどのような業界に興味があるのか、どういった分野で活躍したいのかといったことを思い描いておられたかと思いますが、皆さんは興味があった分野に見事たどり着かれたようですね。

それでは、仕事に限らずですが、これから頑張りたいこと、将来の目標について教えてください。

Aさん 現在は預り資産を担当していますが、いずれは法人担当もできるように貸金の勉強に取り組み、お客様のニーズにマッチに答えられる、フルバンクの人材になりたいと思います。

Bさん 私は、組織に依存することなく、自分の知識と経験で生活できるようになりたいです。

Cさん 信頼されるMRになりたいです。

Dさん 私は海外駐在を経験してみたいです。

Eさん まだまだSEとしての技術力、提案力など、不足している点がたくさんあるので、経験を積んでいきたいと思っています。

Fさん 広いコミュニティーを持ち、幅広い知見を持った公務

員になりたいです。

現在の仕事を極めることを目標とされている方、世間に通用する知識経験を幅広く習得して組織に依存せず成長を目指されている方、海外へ目を向けられている方など皆さん向上心をお持ちのようです。

【東京に出て感じたこと】

大学生生活を過ごした彦根を離れて半年がたちました。同じ一人暮らしをするにしても彦根と東京とでは良くも悪くも戸惑うことが多いかと思えます。

やはり、彦根と東京を比較して住みやすいのはどちらでしょうか。

Aさん 私は、兵庫県在住で彦根・東京の双方に住んだことはありませんが、東京には情報や物事のチャンスが多く集まっております、意欲があれば個人の力を伸ばしやすいように感じます。
Bさん 彦根です。理由は、周囲に気の置けない友人がいたからです。

Cさん 全く違う環境という感じなので、甲乙つけがたいです。
Dさん 空気と景色の良い彦根の方が住みやすいです。
Eさん 住みやすいのは、彦根

だと思えます。やはり通勤時の人の多さや時間がかかる点が嫌な点です。

Fさん 職場の近くには家賃が高く住めないのが彦根の方がすみやすい。

住環境としては、彦根派が圧倒的でした。やはり彦根は自然にも恵まれた住みよい環境なの

かもしません。とは言え、東京に出られてから一年も経っていないので、これから東京の魅力も見つけてもらって、東京で大いに活躍してもらいたいです。

その素晴らしい彦根を離れて感じていることについて教えてください。

Aさん 彦根という町が城下町として、長い歴史を持つ由緒ある街であることを改めて感じました。

Bさん 彦根は第二の故郷であり、その思いは彦根を離れて更に強くなった。

Cさん のどかで住みやすい所だと思います。

Dさん 彦根が田舎だという事は懐かしくなり、帰りたくなります。滋賀に帰るとリフレッシュできるので、定期的に帰るよう

Eさん 時々滋賀県の雰囲気を感じます。
Fさん かなりすみやすい場所だったなと感じる。

にしています。

皆さんの彦根への想いが伝わる回答でした。東京で暮らすことによって改めて彦根の素晴らしさを実感されているのかもしれない。

それでは、滋賀大生の印象はどうでしょうか。社会人にな

ってから滋賀大生でよかったと感じること。職場の同期等から聞いた他大学と滋賀大の違いについて教えてください。

Aさん 真面目な卒業生を輩出しているとの印象を持っている方が多いです。

Bさん 滋賀大学へ入学する際に挫折経験をした者が多く、その悔しさを学生時代の四年間と社会人人生の糧にしていること。

Cさん 国立なので、ある程度は評価してもらえていると思

Dさん 良くも悪くも滋賀大生はのんびりマイペースである感じがします。

他大学出身者に比べて真面目、勤勉といった印象を持たれることが多いようです。目標に

向かって真面目にコツコツ仕事に取り組む姿は近江商人の気風に通じるものがあるのかもしれない。

【その他】

大学時代の思い出について教えてください。

Aさん 当時所属していた新聞会で学生記者として様々な人や企業に取材を行い、地元紙に数

度記事を掲載して頂いたことが印象深い出来事です。取材先や新聞社の担当の方とは今も交流させて頂いており、貴重な経験ができたと思っています。

Bさん 部活動、ゼミナール活動、就職活動を頑張りました。

Cさん 部活です。

Dさん 部活動・寮生活です。

Eさん 大学時代は新聞会で新聞を作成したり、ボランティア団体で環境保護活動を行ったりしていました。ボランティアでも広報を担当していたため、大学では「一人に伝えること」を主に課外活動としていました。

大学四年の時にバリ島で行われた世界湖沼会議で活動を英語でプレゼンテーションしたこと

相続税対策・申告、贈与税申告のご相談ならば

税理士法人ファースト会計事務所

法人税・所得税(確定申告)・相続税・贈与税

〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-15-401

電話：03-3766-5081 Fax：03-3765-1036 HP：<http://www.tax1st.jp/>



代表社員：公認会計士・税理士 松 澤 進 大学38回・平成2年卒
ウインドサーフィン部第6代主将 会計士同好会昭和63年度会長

です。

皆さんとも部活動、サークル活動が思い出深いようです。

それでは、平成三〇年七月七日に開催されました陵水会東京支部総会に参加された際の感想についてお聞かせください。

Bさん 目標にさせて頂きたいと思うほど、かっこいい先輩方が沢山いらっしやりました。その方々は共通して母校と彦根に対する深い愛情を持っていらっしやりました。

Cさん 様々な方と交流できて良かったです。

Dさん ヨット部の先輩方の偉大さ改めて気付かされた。

Fさん 様々な業種で活躍して



いる人ばかりでもっとゆっくりたいです。

Eさん IT業界と言っても、とたくさんの方と話したかったです。また、個人的に仲良くして頂いてゴルフなどを教わってみたいと感じたのが本音です。

母校愛に溢れる先輩の姿を見て、改めて滋賀大生の絆の深さを実感してもらえたようです。

来年からは後輩を迎え入れる側の先輩として陵水会へ積極的に参加してもらえれば嬉しいです。

それでは、最後に陵水会の先輩に相談したいこと、こういう業界の人と仲良くなりたいたいという希望があれば教えてください。

Aさん 同業他社（銀行、信託、生保等）を含め、幅広い業種の方とお話したいと思います。

Bさん 理想と現実のギャップ。自分自身の能力不足と、巨大組織の中で生きていくために自分が自分でなくなっていくって、そういう不安感があり、そういう悩みについて相談したいです。

業界に対するこだわりはありませんが、第一線で活躍されていらっしやる方と親交を深めたいです。

Dさん 船業界の方とお話します。

Eさん IT業界と言っても、ソフトウェア開発から、ネットワーク、インフラなど様々な分野があるため、IT業界で働いている先輩方の仕事のお話に興味があります。

Fさん 一年目でどこまで仕事ができているのか。英語の勉強法について知りたいです。

全職種の方と仲良くなりたいたいが、特に言うのであれば金融と外資系企業の方と知り合いたいです。

今回、就職して一年目の若手陵水会会員にアンケートをお願いし、誌上座談会という形式で仕事のことや現在の悩みについて聞いてみました。

まだ社会に出て間もない時期ではありますが、皆さんとも前向きに、目標を高く持って仕事に取り組まれているという印象を受けました。

一方で、同業の先輩とのつながりが求められています。若手会員も支部総会に出席して、そのつながりの強さを実感されたようですので、ぜひ、次回の総会などの機会に積極的に若手会員に声をかけて頂ければと思います。

こんにちは

北尾 聡子さん（大45回）

PwC あらた有責任監査法人（財務報告アドバイザリー部）所属・公認会計士

■会計士というお仕事

——お仕事のお話からお伺いしたいと思うのですが、「公認会計士」というのはどんなお仕事ですか？



のご相談を受けています。最近では、日本基準に代えて国際会計基準を採用しようとする会社が増えてきているので、どうやって変えていけばよいのかのご相談を受けます。

そのため、オフィスはあるのですが、ほとんど普段オフィスにはいません。クライアント先に朝から晩までいて、しかも一つの会社にずっといることはなく、一週間のうちに、複数の会社を行ったり来たりする毎日です。

——会計士になろうと思ったきっかけはなんですか？

北尾さん 父が税理士で、税務という仕事が身近だったということがありますね。大学に入学した頃は、バブルが崩壊して卒業しても就職も厳しかった時代でした。仕事を続けていくには、資格があったほうがいいかなと思っただけです。卒業した年に受けた公認会計士試験に合格して、卒業した年の十月に今の会社に入りました。

会計というもので会社を診断し、会社の経営状態を自分の目で確認していくのは面白いですね。

——会計士のお仕事にはどんな種類がありますか？

北尾さん 監査以外には、税理士業務や、企業買収のコンサルティング業務を行う場合もあります。

——入社した頃と、現在では仕事内容は違いますか？

北尾さん 役割が変わってきましたね。初めの頃は、上司に言われたことを時間内にこなすというところが一番でしたけど、今は、時間管理しながら、メンバーの様子も見ながらタスクを完了させていかなければいけないので監督の役割もあります。

——お仕事で印象的なエピソードはありますか？

北尾さん 監査の仕事をしていたころ、棚卸の立ち合いを行ったのですが、水産業の会社の棚

卸に行ったときに、早朝港に揚がったタコを数えたということがありました。これは印象的でした。

——時代の移り変わりで会計士のお仕事は変わってきましたか？

北尾さん 先ほど申しました通り、日本基準から国際基準に変わっていくという流れがあります。また、会社はガバナンスを効かせていかなければならず、改ざんなどの不正が問題として明るみになるなど、内部統制の在り方が改めて問われるという動きがあります。有効な内部統制の下で作られた財務諸表が適正であることを会計士も確認することになったので、内部統制の有効性をチェックするという仕事が増えてきましたね。

■会計士として大事なことは、現場を見て、人と話して、人

を見ること。

——いろんな会社に行かれるというのですが、会社によって雰囲気は違いますか？

北尾さん 社風というのは本当にあるのだなと思いますね。服装も社風によって違いますし。様々な意見をフラットに言い合う会社もあれば、話の通し方が決まっているような会社もある

りますね。例えば、ほんとはダメだと思っただけでも言えない雰囲気のある会社としたり、監査では「いい数字に見せよう」としてない？」「正しい数字になつてる？」をチェックするのも大事です。だから会計士も、ただ数字を見るだけじゃダメなんです。会社に行つて現場を見て、人と話して、人を見るのが大事ですね。

——いろんな業界の会社に行かれて、いろんな社風の会社があるために意識していることはありますか？

北尾さん 信頼してもらわないとなかなかお話ししてもらえないので、まず自分のことを語って、「自分はこんな人間です」と。自分を知ってもらわないと心を開いてくださらないですね。大学出てすぐの私がいくら言ってもなあと思いましたけど、「真剣に聞きたいです」という気持ちがあれば、会社の方々は話していただけた。今は、常に、その人の立場を意識して話すようにしていますね。自分自身の若い頃からのたくさんの失敗もあって、「人と接する際の心得」ということを

考えるようになりましたね。■仕事と子育ての両立は無理をすぎないこと

——ご結婚されて、子育てしながらお仕事も続けて生活は変わりましたか？

北尾さん そうですね。入社してしばらく仕事が大変だったので、結婚して子供育ててなんてとてもじゃないけど難しいかと思っていました。正直、先まで見越していたということはなかったですね。

結婚して、子供が生まれて一年くらいお休みしている間に、生活も一八〇度変わって、こんな生活もいいかと思いましたが、でもせっかく勉強して資格も取ったしなと思って仕事に戻りました。

——出産した頃はもう東京にいて、私も主人も実家は大阪、京都だったので何かあった時に子供を実家に預かってもらうということができるかなかったですよね。ですので、地域のいろんなサポートをほとんど利用したと思いますね。お隣りさんが見てくださったたり、子供の友達のお母さんに助けていただいたり。地域の方々のおかげで子供たちは育ちましたね。



ご宴会・ご婚礼・出張料理
カフェランランドーレ・グリルフクシマ



精養軒

〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号
TEL 03-3821-2181(代) FAX 03-3822-1330
<http://www.seiyoken.co.jp> 年未年始以外年中無休





はくじけそうになっても無理しないです。周りには助けてくれる人はたくさんいます。

■ ツーパターンの生活があるからリフレッシュできる。

—— 出産後お仕事の復帰して、出産前とお仕事の仕方は変わりましたか？

一人だけでは絶対できないと思います。だから一人で抱え込んじゃうと、仕事と子育ての両立は難しいな…と感じて仕事を辞めてしまうことがあると思います。無理をしないで、いろんなサポートに頼ってしまふのでよいのだと思います。子供たちもたくましくなりますしね。

割り切りも大事で、全部が全部やろうとすると大変なので、主人にも「ごめんなさい、そんなに全部はできません」と。主人も自分のことは自分でやってくれますし、全ての家事を要求しないという理解に助けられていますね。

仕事と家庭をお持ちの女性に

生地の経営学でした。経営は日々動くものでし、そういう変化してくものが好きなんだなと思います。人の話を聞くのが好きなので授業は全部出てましたね。

■ 東京陵水で刺激をもらいます

—— 東京陵水会の活動に参加するきっかけはなんでしたか？

北尾さん いい面は、仕事と家庭は真逆なので、仕事で「あの嫌なことあったな」と思っても、帰ったら振り返る時間がないんですよね。子供たちにご飯食べさせて、家事やって…。考える時間もなくなってしまうと寝て、起きて仕事に行くと寝て、切り替え切り替えの連続でストレスがないというか、仕事を引きずらないというのはいいなと思います。ツーパターンの生活があるから、気持ちリフレッシュできるというのはありますね。

■ 学生時代

—— 滋賀大に入学し学んできたことは何でしょうか？

北尾さん 経済か法学部に行きたくて。経済学科に入学したのですが、経営学がおもしろいなと思ひまして、ゼミも吉田修先

東京支部総会も行っています。女性も増えてますよね。最初は知ってる方が参加していきなからなかつたので勇気がいりましたけど、会計人会の先輩はきつといらつしやるだろうと思つて「よし行つてみよう！」と。東京陵水会の総会に行くに参加人数が増えてうれしくなりますね。同年代の先輩・後輩がもつと増えていくといいなと思います。同窓会みたいになるし、ちようどいいですよ。

—— 東京陵水会の活動に参加し

て、いいなと思うことはありますか？

北尾さん 今後どのような働き方を続けていこうかを考えることがあると思うんですけど、幅広く活躍されている方のお話を聞くと、「いろんな道があるんだな」という刺激を受けます。

仕事を続けたいという刺激を受けます。仕事を続けたいという刺激を受けます。仕事を続けたいという刺激を受けます。仕事を続けたいという刺激を受けます。

最後に、東京陵水会に求めるものはありますか？

北尾さん 各界で活躍されている方がたくさんいらつしやるので、滋賀大がアピールしたいなと思います。

* *

北尾さんは、「幅広く活躍されている方のお話を聞くと刺激を受けます」とお話しくださいました。私もまさに北尾さんのお話からたくさん刺激をいただきました。社会人として、女性の先輩としてのお話、どれもたくさんのお話、ありがとうございます。貴重なお話、ありがとうございました。

(記者・梅田祐真子) 北尾さん、梅田さん、ご一緒してください。よろしくお願いいたします。



寄稿

協奏曲替歌

……クラシック音楽への誘い

上林 好一(大26)

三十五歳の時からクラシック(コンチェルト中心)にハマっております。よくクラシック音楽を聴くと眠くなると仰る方がいらつしやいますが、それはいい演奏を知らずに漫然と聴くから眠くなるのであり、偶々その方が「世紀の名演」と呼ばれるクラスの演奏を聴かれたことが無いだけの事ではないのかというのが私の持論です。

私と協奏曲との出会いは、二十八年前証券会社のシンガポール現法に勤務していた時代に遡ります。

当時上智大学のオケで巨匠朝比奈隆氏の鞭持ちをしていた後輩のK君が、私の赴任後一年程してからシンガポール現法に配属になり、偶々酒の席で音楽の話題になって、クラシック音楽に興味がないことはないのだけど、なかなか敷居が高くて……と私が持ちかけると、次の日十枚のCDを紙袋に入れて持

って来てくれて、一度これを聴いてみて下さい、と勧めてくれたのがきっかけでした。

最初に聴いたのは、ヨーヨーマの「チェロ協」(ドボルザーク)です。それから、今では曲名をすっかり忘れてしまいました。二日程でそのお薦めの十枚全てを聴いてしまい、一週間後にK君に、「実に素晴らしい演奏だった」と言いながら返しました。

何と、次の週からは、休日はレコード店のクラシックコーナーに入り浸りになっていく私がおりました。その後ジュネーブ現法に転勤になり、ここでも週末になるとレコード店に通う日々が始まりました。

当時から私がCDを蒐集する拠り所としたのは、指揮者の宇野功芳(うのこうほう)先生が書かれた『名演奏のクラシック』『協奏曲の名曲・名演』等(講談社現代新書)、『新盤クラシックCDの名盤』『同演奏家編』(文春新書)等の指南書でした。宇野先生の辛口の評論は、実際にCDを聴いてみると正鵠を得たものばかりであり、安心して蒐集することが出来ました。今でも心の中で「我が師」と仰いでいる先生でもあります。

現在八〇〇枚程のCDを所有しておりますが、その半分をクラシックが占めています。シンフォニー(交響曲)が約五〇枚ですから、三〇〇枚以上が協奏曲ということになります。

クラシック音楽と言うと、その作品の多さからモーツァルトが自然に多くなってしまいうのですが、私も例外ではありません。中でも、ピアノ協奏曲(二十番〜二十七番)、フルートとハー

プのための協奏曲は秀逸であると思います。ところで、モーツァルトというと、その天才ぶりばかりが強調されますが、彼は類稀なる天才であったのは事実ですが、人との出会いを自らが求め、そして新たな人(例えばマリア・テレジア)との出会いを全て自身

の運に変えてしまう天才でもあった事に気付くと、その人間らしい一面が見えて来ます。「人との出会いを大切にし、その縁を育てて行き、自分の運に迄高めてゆく」、これなら私のような凡人でも出来るのではないかと思ひ、今に至る迄私の(仕事の)信条としております。仮に私が二十八年前のK君だとしてたらどんな十枚を選ぶかという事を考えてみると、次のよ

うになりました。是非参考にしてみて下さい。

① 諏訪内晶子「シベリウス&ウオルトン ヴァイオリン協奏曲」(PHILIPS)、② 諏訪内晶子「ツイゴネルワイゼン」(パッシ

ョン) (PHILIPS)、③ チョコンキョン「メンデルスゾーンヴァイオリン協奏曲(俗にいう「メンコン」)、チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲」(DECCA)、④ イ・ムギチ合奏団「四季」ピーナ・カルミレット

リヤ (PHILIPS)、⑤ エリック・ハイドシェック「テンペスト・版画」ベートーベン ピアノソナタ17番「短調」等 (TECC)、⑥ ダニエル・バレンボエム「モーツァルト ピアノ協奏曲22番・23番」(EMI)、⑦ ヨーヨー

マ「ドボルザーク チェロ協奏曲」(SONY)、⑧ 内田光子「モーツァルト ピアノ協奏曲20番・21番」(ジェフリー・テイ



弁護士法人

AIT医療総合法律事務所

顧問業務の他、事業承継・相続・遺言・後見を扱っています。ぜひ気軽にご相談ください。

〒104-0061 東京都中央区銀座 2-8-18 グランベル銀座 702

TEL: 03-5561-6011 FAX: 03-5561-6012 メールアドレス: aoki@ait-medicallaw.jp

代表弁護士・税理士・社会保険労務士

青木 聡史 (大学45回・平成9年卒)



三徳山三佛寺奥の院 「投入堂」(国宝)紀行

加藤 博善 (大14)

初めに、私の巡礼趣味を語っておきたい。六十二歳の二月初旬、書店で元朝日新聞「天声人語」の執筆者、竜野和男著「四国遍路」を読み、四国八十八か所歩き 遍路に興味をもった。そこで私も八十八か所めぐりに挑戦しようとした。

この年二月の間は毎日十キロから二十キロを歩き、装備を整えて二月二十三日に出発した。最寄りのJR坂東駅から約一キロ歩いて第一番「霊山寺」についた。ここでお遍路姿に変身するため、白衣、菅笠、輪袈裟、さんや袋で身を飾り、念珠、納経帳、金剛杖、納札、ローソク、遍路地図、ビニールポンチョなどを整えた。道中でいろいろと経験を踏み、この年三月三十一日に結願寺である八十八番札所の「大窪寺」に着いた。三十八日間の歩き遍路を終えて、翌日高野山へ御礼参りに行き、旅が終わった。

その後、西国三十三か所、坂東三十三か所、秩父三十四か所、北陸三十三か所、熊野古道(中辺路ルート)、洛陽三十三か所、

北國街道(米原・福井ルート)を歩いた。更に一昨年には東海道五十三次を二十七日間かけて継ぎ歩きをした。

今回の「投入堂」巡礼は五年前に出雲大社に参拝した時から計画していたことだ。

八月二十七日、皆生温泉バスセンターから米子駅を経由、倉吉駅に着いたのが、十時二十六分だった。駅の中の観光案内所

で出発時間を聞き三徳山三佛寺行きのバスに乗る。三朝温泉を経由して三徳山駐車場に着いた。三朝温泉は古来「投入堂」に来る修験者が修行のあと体を癒していたところである。この寺は、役行者が修験道の道場として開き、慈覚大師により阿弥陀如来・大日如来・釈迦如来の三尊が安置され、三徳として福德、知徳、壽徳を表し、天台宗三徳山三佛寺と称することになった。「投入堂(国宝)附愛染堂」はこの寺の奥の院である。日本でも代表的な舞台造りで断崖絶壁のふちに建ち、近づく道がな

い。垂直の崖に浮かぶとも建つとも表現しがたい優美な姿を醸し出している。役行者がこの建物を岩窟に投げ入れたということから「投入堂」の名が伝えられた。

体験した投入堂までの道筋である。

参道入り口から本堂に三百メートルの石段を上る。その両側には偕成院、正善院、輪光院の堂宇が並ぶ。本堂参拝後入峰修行受付所に志納金二百円を払い登山のための服装、履物のチェックを受ける。靴を草履に履き替えねばならないことがある。この草履は持ち帰ることができ

ること。輪袈裟には「六根(眼・耳・鼻・舌・身・意) 清浄」と書かれていて肩から掛けることになっていて、赤い欄干の「宿入橋」を渡る。木の根が入り組んだ急斜面を登る。途中の「行者屋敷跡」「願からの石段」に来るともう汗だくである。小休止し「くさり坂」から「文殊堂

へ。目の前に立ちふさがる巨岩を鎖に伝って越える。更に地藏堂、鐘楼堂、納経堂、観音堂、元結掛堂、不動堂と経て、その間に馬の背、牛の背と名のある危険な坂道を登り、鎖で再び巨岩を超えてようやく「投入堂(国宝) 附愛染堂」に一時間かけて這い上がった。

狭い堂の周りに数人の外国人を交えた若者たちが休んでいる。「投入堂」の壁は四方すべて板で閉じられていた。お堂の

縁側に座り周囲の峰々を眺望し、空を仰ぎ、吹き抜ける風を感じながら、あまりにも急峻な絶壁の際にあるこの場所は数分で足が凍んで来た。

苦勞が多い下り道に五十分かかって受付所に戻り、輪袈裟を返還した。時間を見たら午後二時。汗だくの服を近くのトイレで持参した替え服に着替え、参道横の「みとく茶屋」で遅い昼食となった。バスの時間まで一時間ほどあったので此処の座敷で暫く横になった。

三徳山三佛寺は、千三百年の間修行と祈りの場として人々を魅了し続けてきたのは何故か。「第一は車のない時代は、人里離れたこの寺に着くまでが大変で、修験者でさえ三朝温泉で泊まり、英気を養い入山するといふ苦勞があり、その苦勞を乗り越えることが達成感を生んだ。第二に全山聖地として開発が禁止され、自然のままの姿が千三百年のあいだ残され、その靈気が修行者に入り込み、清々しい気持ちにさせたこと。第三に全身あせまみれになり、ただ目の前の難所を越えるのに体全体を働かせ、身を守るといふ動物本来の本能を呼び覚ませ、それこそ六根を百%活用することによ

り、錆びついていた六根を清く浄化してくれる。」このように雑念を払い無我の境地になれる場所がこの寺なのではないか、と考えていた。

帰りの倉吉駅行きのバスは私たち夫婦と四人連れの家族の六人だけ。更に米子まで約三時間、話も楽しく弾んだ。この家族とは帰宅後メールやフェイスブックを通じて更に親しくなった。

今回の旅を通じて修験道に興味があわいた。来年は大峰山に登り山上ヶ岳に行き、修験道の本山「大峰山」にお参りしようと思う。

《風さやか崖を穿ちし 堂に立つ》



三仏寺「投入堂」

吟城会(運営大誌吟部OB会)

吟城会の活動状況については、毎年陵水会年報において報じられてきましたので、知る人ぞ知るところかと思いますが、その寄稿者、林貞夫氏(18回卒)がこの六月に不慮の事故死を遂げられたことで、年報への記載が間に合わなくなったこともあり、支部会報へ寄稿させて頂く次第です。残念ながら詩吟部自体は昭和が終る頃(昭六十二/三第35回卒が最後)には廃部となってしまうようですが、OB会名簿には第三回卒の先輩を筆頭に九〇名程が名を連ねており、毎年、東京(関東吟城会)、京都(関西吟城会)、名古屋(中部吟城会)の三支部毎にOB会を開催しております。三支部共、開催の案内は会員全員になされることより、全会場に参加する人も少なくなく、非常に活発なOB会活動となっております。関東での過去での集まりでは、会場を屋形船上とし、隅田川を周遊しながら旧交を温める場としたこともありましたが、ここ数年は銀座「がんこ」での開催が通例となっております。直近での開催状況(平二十九年十一月十八日開催で関東より十二

名、関西より六名、中部より四名の計二十一名が参加)は関東から山田氏、寺田氏、中沢氏そして関西から立入氏の最長老格の第15回卒生が過去最高となる四名の参加となり、おおいに場を盛り上げて頂きました。関東開催を代表し、既述の山田氏の開会挨拶と乾杯に始まり、各自からの近況報告がなされた訳ですが、その内容は家族(孫談義が多かったかな?)の話題、病魔との闘い、体造りやボケ防止対策、新たな趣味や放送大学への挑戦談等、様々。続いて幹事(第20回卒の浜野氏)より、欠席者の近況が簡潔に報告され、歓談の場に移りました。この折には久し振りの再会に、対酌しつつ、肩を叩きあったり、歓声を上げる小集団があちこちに見受けられました。一段落すると、学生時代の合宿やコンパには欠かせなかった「愛吟・愛唱歌集」からの抜粋小冊子が配られ、「詩吟部部歌」(作詞柴田豊彦、作曲清水浩平氏)を皮切りに、「武田節」、「白虎隊」等の歌謡吟詠やこのグループならではの「まぜ一献」「蒙古放浪の歌」「熱き涙を」等今や古曲と化しつつある歌の独唱、合唱が絶え間なく

続き、制限時間を些かオーバー名、懐かしの大学キャンパスで一滋味での中締めで「フレーフレー滋賀大、フレーフレー詩吟部」で幕となりました。二次会は近くのカラオケ店へ繰り出すことに。ここへも九割方の者が参加。歌い残した歌集からや遠くとなり果てつつある昭和の歌を中心に。数時間に及ぶ宴会に、お歳柄疲れも出てくるはずが、詠の美少年とはいかないまでも、若き血潮が蘇ってきたのか晴れ晴れ、澁刺としており、命の洗濯ができたかのように感じられました。フィナーレは恒例となつていて、全員が肩組み合つての「竹馬の友」「惜別の歌」の大合唱でまたの日の再会を期しました。柴田 豊彦(大16)記



同窓の誼(よしみ)

黒澤 日出男(大12)

六十年前に彦根の学び舎に入学した同窓生・陵水三七会総会

が、懐かしの大学キャンパスで開催され出席した。残念だったのは三年前の伊勢志摩での総会五十二名から激減し、わずか三十二名の参加者となったことだ。六月四日午前十一時に二号楼舎棟大会議室に集い、小倉副学長から「経済学部の変遷と社会の改革要請に因應する大学改革」について詳しい講義を頂いた。国立大学としては最大級の定員五百五十名から九十名を減らし、経済・ビジネス分野とのシナジーを有する理系のデータ・サイエンス学部を本年四月に開設・一期生入学を迎えたという。この後、小倉副学長の案内でキャンパス見学を行い、彦根高商以来の懐かしの木造校舎が一新されたコンクリート造の校舎・図書館・研究棟・資料館などを見学した。総会と宴会は、大学会館二階の生協宴会場で執り行われた。宴会は小人数なので、六テーブルを回り全員と飲み交わすことが出来た。今回の総会を成功に導いてくれた大村兄・山田兄をはじめとした東京組の諸兄にも感謝したい。皆さんご苦労様でした。これぞ同窓会の誼といえるだろう。ありがたし。



ジャパン SHIPPING サービス株式会社

代表取締役 **武田 吉史** (大30回)

〒105-0004 東京都港区新橋 2-5-5 新橋 2 丁目 MTビル 7 階
TEL: 03-3580-7733(代) 03-3580-0711(直通)
Fax: 03-3580-7737 URL <http://www.jship.co.jp>
E-mail: info@jship.co.jp(会社) yoshi-takeda@jship.co.jp

●滋賀大学が最高評価

文部科学省の国立大学法人評価委員会は十一月二十日、国立大など九十法人の中期計画（二〇一六年度から二十一年度）の進捗について、十七年度の評価結果を公表した。「業務運営の効率化」の項目で滋賀大学、宮崎大学の二大学を「特筆すべき進捗状況」という最高評価をした。

文科省の国立大学の実績に関する評価によれば以下の通り説明されている。

滋賀大学は地域に根差す視点とグローバルな視野とを併せ持つ「知の拠点」として豊かな人間性を備えた専門性の高い職業人の養成と、創造的な学術研究への挑戦を通して社会の持続的可能な発展に貢献することを基本理念にしている。第三期目標期間にはこの理念に沿って、未来志向で文理融合の学識と地域の発展に貢献できる革新的な創造力とリーダーシップを発揮する人材の育成の推進と、これまでの環境リスクの研究課題に取り組んでいる。この目標に向けて特色ある組織設置を契機として教育研究の強化、データサイエンス教育研究拠点としての取り

組みを実施するなど、「法人の基本的目標」にそって、計画的に取り組んでいることが認められた。業務運営に当たり特筆すべき評価として挙げられているのが次の実績である。

国内初となるデータサイエンス学部の新設を期に「滋賀大学イノベーション構想」の実現に向かって、自治体、企業などとの連携や、教育研究の強化に取り組んでいる。また三十七企業等と連携や教育強化に取り組んでおり、現役のデータサイエンスの講師招聘など連携先は五十を上回る。第三期目標期間の目標を達成している。

また外部資金の獲得についても、寄付金受入額目標額の三分の二を確保、受託研究などの受け入れ額も増加している。

さらに企業などの連携強化によりデータサイエンスの社会での実際の活用事例に直接触れる教育体制の展開を進め、共同研究の成果を「プロジェクト・ペイスド・ラーニング」の演習教材として活用するなど教育体制の強化を実施している。

中期計画の終了時の評価が高い大学には、次期計画期間中の六年間の運営費交付金が手厚く交付される。

（編集部纏め）

●「近江ゆかりの会」の開催

滋賀県東京本部

三井 利紀（大38）

平成三十年十月十六日（火）に、品川プリンスホテルで平成三十年度「近江ゆかりの会」を滋賀県と一般社団法人東京滋賀県人会の主催で開催しました。

この会は、滋賀出身者、滋賀大学をはじめとする県内大学・高校の卒業生、滋賀での勤務経験者など、滋賀にゆかりのある方の親睦を深めるとともに、新たなつながりやビジネスチャンス



の創出を狙いとしており、今回も、滋賀県選出の国会議員をはじめとする首都圏で活躍されている方を中心に、三百六十名もの方々にご参加いただきました。

当日は、三日月大造滋賀県知事の「滋賀の活力、発信力を高めていきたい」との挨拶に続いて、びわ湖ホール声楽アンサンブルによる「琵琶湖周航の歌」など格調高いミニ・コンサートで会場の雰囲気は盛り上がり、名譽顧問の田原総一朗氏の乾杯の発声で交流会はスタート。はじめて参加したという三十代の方は、「こんなにたくさんさんの滋賀県ゆかりの人が集まるとは」と驚きつつも、熱心に名刺交換されていました。参加者は、近江牛や鮒ずし、赤こんにやくを使った料理などを囲んで親交を深め、最後は、全員が肩を組んで会場いっぱい大きな輪をつくり、「琵琶湖周航の歌」を大合唱して閉会しました。

陵水会の皆様には、今年度も事前のPR、参加者のとりまとめなど様々な面でご協力いただき、本当にありがとうございます。末筆ではございますが、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも滋賀県事業への御支援のほどお願い申し上げます。



東京陵水ゴルフ会

（第一一〇回〜第一一三回）

この一年間も金乃台カントリークラブで、好天の下、熱戦が繰り広げられました。

この一年間は、ベテランと中堅の選手が複数回目の優勝をさ

れました。特に山本保選手は西坂杯に続き小楯杯も取切り優勝しました、また今年度も四名の若手新規の参加者がありました。

【各回の戦績・優勝者はじめ飛賞も含めた賞金獲得者名は下記の通りです】

●第一一〇回記念大会

- △大15回 山本保選手、小楯杯取切り四度目の優勝▽
- 平成二十九年十二月十三日
- 六組 二十三名
- 成績（賞金獲得者）（卒年）
- ネットスコア（ハンディキャップ）
- 優勝…山本 保（大15）74（27）
- 準優勝…小野孝史（大19）75（2）
- 三位…能島信夫（大22）75（12）
- 四位…松浦幸作（大8）76（27）
- 五位…兼松泰男（大18）76（16）
- 十位…岡本和之（大17）79（15）
- 十五位…門平幸二郎（大19）85（15）
- 二十位…中岡浩三（本23）94（19）



【新規参加希望の皆様へ、新規
会員大歓迎！】
氏名・住所・☎番号・生年月
日・卒業回・所属ゼミ・部活・
ハンディキャップを下記メール
アドレスにご連絡下さい。
山本 保：
yatax_888@jcom.zaq.ne.jp
田口良三：
fwnx8165@mb.infoweb.ne.jp
山本 保 (大15) 記



B B賞…蔵田昭憲(大17) 101(16)
ベスグロ…小野(大19) 75
ドラコン…能島・田口
ドラ短…中尾・蔵田
ニアピン…田川2・竹森・
小野・能島

●第一一回大会
△大15回 富田博司選手、
四度目の優勝▽
平成三十年四月二十四日
六組 二十二名

成績(賞金獲得者)(卒年)
ネットスコア(ハンディキャップ)
優勝…富田博司(大15) 61(21)
準優勝…田川行雄(大9) 66(20)
三位…岡本和之(大17) 67(23)
四位…山本 保(大15) 68(34)
五位…木戸 彪(大16) 68(40)
十一位…伊藤博邦(大19) 73(23)
十五位…川崎憲夫(大17) 77(11)
B B賞…奥村勇雄(大15) 87(28)
ベスグロ…小野(大19) 78、
ドラコン…小梶・田口

ベスグロ…竹森(大19) 79
ドラコン…田口・柳
ドラ短…奥村・蔵田
ニアピン…鶴見・川崎・奥村・
中岡

●第一二回大会
△大12回 田村寿夫選手、
十一年ぶり三度目の優勝▽
平成三十年六月十二日
六組 二二名

成績(賞金獲得者)(卒年)
ネットスコア(ハンディキャップ)
優勝…田村寿夫(大12) 68(40)
準優勝…能島伸夫(大22) 69(15)
三位…鶴見芳令(大15) 70(39)
四位…松浦幸作(大8) 72(34)
五位…小野孝史(大19) 72(6)
十位…中西三(大5) 80(36)
十二位…柴田吉典(大19) 77(15)
B B賞…伊藤博邦(大19) 85(23)
ベスグロ…小野(大19) 78、
ドラコン…小梶・田口

ドラ短…中西・柴田
ニアピン…松浦・竹森2・
小野・柴田吉典

●第一三回大会
△大9回 山本孝之選手、
十年ぶり二度目の優勝▽
平成三十年九月十八日
五組 十八名

成績(賞金獲得者)(卒年)
ネットスコア(ハンディキャップ)
優勝…山本孝之(大9) 65(37)
準優勝…丸井 裕(大15) 70(31)
三位…佐藤秀孝(大10) 72(30)
四位…高居健二(大18) 73(25)
五位…西坂徹雄(大9) 74(26)
十三位…山本 保(大15) 81(34)
十五位…田口良三(大23) 81(24)
B B賞…木戸 彪(大16) 87(40)
ベスグロ…小野(大19) 84
ドラコン…川崎・中村勝
ドラ短…田川・田村
ニアピン…佐藤・平井・竹森

東京陵水会囲碁会便り
平成三十年囲碁大会の実績を
報告します。
●平成三十年六月十六日(土)、
全国情報サービス産業厚生年
金基金会館にて開催。
十一名参加

戦績
優勝 中沢龍彦 七段(大10)
準優勝 三井照次 七段(大10)
三位 寺沢 優 二段(大16)

●平成三十年十一月十七日
(土)、全国情報サービス産業
厚生年金基金会館にて開催。
七名参加

戦績
優勝 森本忠徳 五段(大9)
準優勝 鈴木克治 八段(大14)
三位 聖成崇夫 八段(大17)

三土曜日、年に開催しておりま



金乃台カントリークラブ

支配人 足立原 孝文

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町3432
TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182
ホームページ http://www.kinnodai.com

“すべてのプレーヤーが楽しめるゴルフ場”
『今年も皆様のご来場をお待ちしております』

れています。

陵水会の会員は先号の会員も
含め以下の通りです。

(平) 平回順 敬称略

鈴木重成(大7) 浦谷政夫(大7)
西野 宏(大7) 田川行雄(大9)
西坂徹雄(大9) 中川寿一(大10)
堀内 和(大12) 宮野幸雄(大12)
平居俊雄(大12) 小林三郎(大13)
加藤博義(大14) 吉田勇夫(大15)
柴田豊彦(大16) 木戸 彪(大16)
滋野輝彦(大17) 小梶清司(大18)
西川清吾(大18) 和田博之(大19)
竹森二郎(大19) 小野孝史(大19)
青木美憲(大20) 脇坂 守(大21)
能島伸夫(大22) 岩崎博之(大27)
岡野茂樹(大28)

入会ご希望の方は右記の会員
または浦谷(ZAT16132@nifty.
com) 〇四九一二六一一五五
〇八)までご連絡ください。

なお、ネットで「岳精流日本
吟院」を検索されると、流統の
概要がご覧いただけます

浦谷 政夫(大7) 記

第五十七回有田会開催

平成三十年度(第五十七回)
有田会を、九年ぶりに東京が地
元幹事役で、十月二十日に伊豆
長岡温泉のKKRホテル「千歳
荘」で開催しました。6回卒業
の市村仁代表幹事を筆頭に二十
五名が参加しました。

この会ではメンバーのひとり
が講演をすることがならわしと
なっています。今回は「中国の
実像―第二の人生、十三年中国
とかかわって」と題して筆者が
講師役を務めました。

その後源泉かけ流しの温泉を
楽しみ夜の更けるまで懇親しま
した。翌二十一日は世界遺産の
葦山の反射炉を訪ね三島大社に



参拝して三島名物のうなぎの昼
食の後解散しました。

今回は来年の十月三十・三十
一日に京都で開催することが決
まりました。東京からも奮って
ご参加下さい。

近藤 達也(大13) 記

東京陵水会計人会

新年会開催

岡田 憲治(大18)

東京陵水会計人会新年会を平
成三〇年一月二十九日、新宿西
新宿「すし屋銀蔵」にて開催し
ました。

今年の新年会は十名が集まり
ました。参加者は星出潔(大
13) 岡田憲治(大18) 長井和夫
(大22) 御旅屋尚文(大24) 深



田陸子(大26) 上田信子(大
29) 久野康成(大37) 松澤進(大
38) 北尾聡子(大45) 木村繁(大
46) の皆様です。高木早苗(本
24) 稲野辺敬義(大19) 笠浪真
(大48) 稲葉隆博(大48) の皆

様は、残念ながら、ご都合によ
り参加できませんでした。
今年も久野さんから自作の日
めくりカレンダー「The Daily
Kuno 2018」365日「有給休暇」
を出席者全員に贈呈してい
だきました。

毎朝、和文と英文による
Insight and Motivation を楽し
みにしています。

公認会計士事務所長、税理士
事務所長、社外監査役、団体監
事、監査法人所属公認会計士等
の皆様から近況報告と共に貴重
な話が聞け、今年も有意義で楽
しく美味しい充実した新年会で
した。

滋大陵水新聞会

OBOOG会の開催

「滋大陵水新聞会」は毎年彦
根と東京とで交互にOB会を開
催している。今年も、東京での
開催の年ということで、十一月
十日、十二時から品川プリンス
ホテル内のカレッシュトップシエ



ールにおいて開催された。
当日は卒業生十二名、現役生
五名の合計十七名の参加であつ
た。遠くは九州から、又大津か
らと当会を自己活性化の場と捉
えて出席する卒業生もいた。
OB会の冒頭、現在の編集長
から挨拶があり、現在の部員増
強を含めての編集体制や発行回
数の増加などの苦労、陵水新聞
会の抱える課題について報告が
なされた。

その後、参加者の自己紹介が
行われ、OBからは「東京陵水」
の記事作成、編集への協力につ
いて期待があると懇請された。

その後は懇談となり、OBから
現役生へのアドバイスやOB同
士の思い出話が各所で行われて
いた。来年は彦根で開催される
予定である。浦谷政夫(大7) 記

東京九回卒の集い

昭和三十六年卒業の第九回メンバーは長らく毎年彦根で春の桜の時期に併せて同期会を開催しているが、東京地区の同期の集まりは年に二回の食事会と春、秋のゴルフコンペで続けている。

最近の食事会は築地のレストラン「蜂の子」で美味しい料理とワインを楽しみながら、お互いの近況や今取り組んでいる事柄などを語らっては旧交を温めている。はじめの頃は二十名以上の仲間が集い、貸し切りで開催していたが段々と参加者が減ってきて、今や十名程度の集まりになった。ゴルフは「さぶろく会」と名付けて長らく続けている。初めは三組では足りないくらいの盛況だったが、だんだん参加者の数が減り、数年前から大10回卒の方がたにも参加していたが、なんとか二組のコンペを継続している。いろいろな事情で参加できない人が増えてきたが、健康以外の事情でできなかった方々には参加しやすい時間や場所を工夫して参加者の数を増やしたいと考えている。

田川 行雄(大9)記

東京陵水 文芸

俳句

加藤 博善(大14)

彼岸会の母の墓前や「がまんおし」

春の彼岸に母の墓参りをした折、生前母が口癖のように言っていた「がまんおし」が聞こえてきました。

今日は赤あじさみ供う地蔵堂

梅雨の朝の参拜時、本堂脇にある地藏堂にあじさみが供えられており、四・五日に一度色違いの花が取り換えられています。

せみしぐれ写経の筆の無心かな

真夏の本堂の写経会、嵐のような蝉しぐれの音にも心うばわれることなく、筆を走らせる人に感動しました。

中川 郁三(大5)

晩秋、安曇野に旅して

山葵田に虹鱒翹う暮の秋

三連水車の大王山葵園。小石を盛った畝を湧水が流れる。澄んだ水を湛える小さな池に虹鱒

がゆったりと浮かぶ。

柿すだれソーラパネルの軒下に

ソーラパネルが大屋根に並んでいる。その軒下に干し柿作りの柿すだれが下がっている。日本の秋の原風景田舎家と太陽光発電の取り合わせ。

行きずりに賜いし林檎粉吹ける

松尾寺を下ると道は林檎園の脇に出る。台風に耐えた鈴生りの大玉。写真を撮ったり眺めたりしている園主らしい人がやってきて大玉を無造作に握いで我々七人に一個ずつくれた。

赤茜追えば常念岳現はるる

最も普通の赤とんぼだが、その数は激減している。六月に孵化して山に移り秋に里に降りてくる。小さな群れを目で追っている安曇野の象徴常念岳の双耳峰がほほ笑むように見下ろしていた。

秋深し宿に古たる檜風呂

山麓の穂高温泉。家族三人で

切り盛りする紅葉に囲まれた温泉宿。自慢の檜風呂の香りは幽かだったが、いつまでも持ちこたえて欲しいと願う

能島 伸夫(大22)

長野県の「安曇野」に行ってみました。好天に恵まれ北アルプスの雪化粧や山々の稜線が殊の外鮮明に映りました。

柿たわわ街道護る道祖神

道々に多くの道祖神が祀られ、すぐそばの家々に下記がたわわに実っていました。日本の原風景を見る感じでした。

鐘の鳴る丘に木の実や猿親子

穂高町にある鐘の鳴る丘公園に行つたときのこと。親子の猿が木陰に現れ木の実を食べていました。菊田一夫の原作を思い出しました。

落ちこぼれ青き栗拾い上げ

木々に囲まれた碌山美術館を歩いているとき、茶褐色の艶のある栗のなかに、青い実が転がっていました。どこことなく心が惹かれました。

短歌

「琵琶湖ありてこそ」

浦谷 政夫(大7)

その昔虚無僧(こむそう)のぬし片田舎 見目よく乞食の化けてをりたり

あの朝も虚無僧おもてに立ちてぬき我がひもじさを笑ふがごとく

里芋などいくらでもありし田舎家に皮むかされてかゆしかゆしよ

鶏をおろすことなどたやすきに出刃包丁さへありかを知らず

比良八荒吹きすさびたるみづらみに寒中 兄と櫓を漕ぎぬたり

白波のたてるみづらみ大海と異なるところ無きに等しく

比良よりの冷たき風に流されて棹さす夕べ手の凝(ここ)りみき

大船さへ難破せし湖(うみ)にとさらに田舟ごときは木の葉にひとし

御代なれば天智天皇も御覧ずらむ
けふマラソン日誌賀の都は

宝ものなき地に育てば田畑(てんぱた)を唯一のものとなしめ
てみたり

移民で成るアメリカ社会の深奥に
カンダタが住む差別の界あり

【支】韻 平起式A
柴田 豊彦 (大16)

(平成三十年四月十五日)

関西吟城会に寄せて

「志尚存」

志尚存す

【陽】韻 平起式A
鈴木 重成 (大7)

ことしまたびわ湖見たさにマラソンを
酒飲みながらテレビに釘付け

なつかしく梅花藻(ばいかも)なる語を聞きしかば湖(うみ)にそそげる川をおもひぬ

三味線の音の響きを囲みなし
聞き入る人の懐かしきかな
ふるさとを異にする妻いつの日か
母の使いし訛りて語る

(起) 金亀城下舊相知

金亀城下にて旧くより相知り
(承) 経歴星霜再集時
星霜を経歴して再び集う時

(転) 昔日少年今鶴髪
昔日の少年今は鶴髪なるも

(結) 歡談對酌又吟詩
歡談しつつ對酌し又詩を吟ず

【語釈】
*吟城会……滋賀大詩吟部OB会の名称
*金亀城……彦根城の別称
*星霜……年月、歲月
*鶴髪……鶴の羽の様に白い頭髪(先に亀がでたので白頭、白髪のことを鶴の羽に例えた)

*對酌……さしむかいで酒を飲むこと
【通釈】
・金亀城のある彦根の地にて、古い昔に知り合い(旧知)し、友と永い年月を経た後、再び相見える事となり、古時の紅顔の美少年は何時しか白髪頭の爺となりはてていたが、昔話(等)に花をさかせ、酒を酌み交わし、又、詩吟を楽しんだ。

【詩作の感懐】
恒例の陵水支部総会が始まった。あちこちで元気な杯の交換あり。
昔話で思い出は尽きず、やーおーの気分は益々高まつてきた。
ふと思う。ウン一〇年の年月は過去、現在、未来へと流れていくが、お互いの、青い志しは健在なり。
大いに気持ちを広げて、詩吟を詠い合おう。

【尤】韻 【平起式A】
青木 美憲 (大20)

去年(こそ)の夏帰りにロードの僅かをば歩ききたれり瀬田川沿ひに

「ひねもす」

林 史欣 (大8)

史実には「実」には遠きものありぬそこに生まれる歴史小説

六十年(むそとせ)前通ひ道も
拵げられ様姿はりなる大津の街は

銭湯の脱衣室にも似たる日か
拭えど拭えど乾かぬ身体

離れ住む娘を電話に呼び出だし
びわ湖がうつると叫んでみた

今宵また中空に赤き星の在り
宇宙に望みを託せと言わん

端坐した禅僧の姿かくあらん
秋天の地下蔵堂建つ

帰り道比叡風のきつければ粟津の晴嵐あなどるでなし

安曇野の秋に一点ヨーロッパ
碌山館の陽だまりにあり

桜にはやや早けれど水ぬくみ比良の
いただき白まだらなり

木を植えて雑木林に踏み込んで
ふるさとの山に拾う思い

原点は何はともあれふるさとのそこは
かとなき山湖(さんこ)にありぬ

鉄道はバスに交代郵便は
スマホに変わるふるさとの路

「賀吟城会隆盛」

吟城会の隆盛を賀す

漢詩

浅き森日差しは軟に枯葉盛る
山路横切る鳥の鳴き声

【尤】韻 【平起式A】
青木 美憲 (大20)

昊天澄爽碧雲流
昊天澄爽碧雲流る

銀杏黄衣落葉稠
銀杏黄衣落葉稠し

想起故郷離別處
想起す故郷離別處

十年過往又深秋
十年過往又深秋

【通釈】

秋の空は爽やかに澄み渡っており、その中を空の色を写した青い雲が流れて行く。いちようの木もすっかり黄色に染まり、絶え間なく葉を散らしている。それを見ていると、故郷を旅立ったあの頃を想いだし、この十年の時の速さをしみじみと感じるのである。

「雑感」

雑感

【庚】韻 【平起式A】

木戸 彪 (大16)

今宵雨歌坐三更

今宵雨歌みて三更に坐す

只有茅簷点滴聲

只だ茅簷に点滴の声有るのみ

却是寂寥生懊惱

却是寂寥たりて懊惱生じ

夜來輾轉到天明

夜來輾轉天明に到る

【詩意】

真夜中にベッドで起坐している。外は雨が止んだようだが、軒下の雨だれの音が聞こえるだ

けの静寂。

静かすぎて却って寂しい気分になり、余計な悩みさえ生じてきた。そして一晩中輾轉反側するうちに、夜明けになってしまった。

「めん鉢 ふるさと遠望」

光春窯 善方 海三 (大4)

昨夏、「第五回ねりま手工芸公募展」に写真の「めん鉢 ふるさと遠望」が区长賞となりました。器の中はワイングラスの緑と茶のガラス片が溶解し、深い緑が表現されています。

思えば平成二年に日清食品(株)の故安藤百福社長の紹介で本阿

弥光隆先生に師事、さらに、陶芸会、井野先生にも師事し、以来三十数年余り。平成九年の「六三椀展」をはじめ、個展も四回、上野松坂屋、西武池袋店等にも作品が展示されるなどの陶歴です。

作品に添付のしおりは「茶の湯の器に惹かれて始めた茶陶を追い求めています。その傍ら、土と炎の神秘に魅せられて食と酒の器作りも楽しんでいます。一つの器

作品に添付の



題名「横浜みなとみらい」

油彩 F 20号

発展しているみなとみらいの万国橋を描きました。

白と黒とをベースに空の部分のみ青を使ってみました。

滋野 輝彦 (大17)

編集室 所感

陵水会東京支部総会が前年に続いての盛況で、ついに三百人を超える参加者となりました。世の中の多くのOB会が参加者減少に悩んでいる中で、わが東京支部は新人が十六名も参加してくれるなど、さらに盛大な総会となりました。

わが東京支部は三年幹事制でさらなる発展を目指しています。

「東京陵水」もその一翼を担うべく、若手編集部員四名の活躍もあり、総会でご協力頂いたアンケート結果も取り入れて洗練たる紙面作成を企画しました。

初めて女性のインタビュアーによる現役で活躍されている女性ゲストを迎えた「こんにちは」、新人による紙上座談会、さらなる文芸欄の充実など新鮮なスタッフの積極的な参加がその一例です。

本紙も百号を超えて、この度の陵水会百年史編纂の過程において、本部所蔵の資料の中から本紙第一号から最近号までの綴じ込みが発見され、その実績を改めて確認することができたのは朗報でした。

(T)

平成30年度東京支部年会費ご納付ありがとうございました。

平成30年11月26日現在

箸樋竹杉佐粕今^大4増中清^大3柴河岡^大2渡川^大1山保西加岡^本24松前西^本23箕寺^本22豊犬井^本21葛^本20高小笠^本19山^本17
 方上内山々瀨井田川水田村田辺本本正澤納田本川田浦本田塚口上木原口
 海不鋭次健常茂弥善茂博貞洋淳彌延康弘昌博宗克武
 三子二武郎三清樹次和夫文巖二茂之介保正司浩義之祐弘正郎毅一民一郎幸滋美

^大池8柳東西富鈴佐木浦宇磯^大7三藤久林中高田齋兒草川河北大^大久白今岡^大6三樋中中龍神岡井飯^大5松
 田原野野永木野下谷野部宅原木村橋中藤嶋生村合川谷保井宿田井上西川口谷田上島岡
 辰昌和義重政一義多義謙博秀高正知和正春毅義隆正泰三郁秀和明正
 彦弘弘宏孝成了実夫進郎男雄雄郎一治実康次治男紀夫夫雄靖弘亨勝功一三夫亨義郎勲曜

^大川川11山細服島中坪田佐大白石井^大10吉山森乘藤藤平西西中中田^大9安松松林浜並刀瀧酒小大尾小池
 北合田谷部山川田中藤村井垣上田本本富本江瀬田坂島川川田岡浦崎川館川井森島本塩田
 直久全義寿清俊秀善孝忠俊裕忠武廣徹勝和行一健幸史守信雅通清明政正弘
 行嗣進孝孝生一六男孝昇健康隆弘之徳二郎正明彦雄司巳雄雄雄作欣三淳雄一夫美美二長孝

 黒木奥大海穂^大15丸古羽中土古北加小^大14若吉納中徳西近小岡朝^大13宮堀堀平田守奥稲^大12松松野関小
 田下村澤野山井川瀨村井山村藤口山田堂村地藤藤林崎奈野川内居村谷村邑本浦色林
 悦英勇義廣祥浩展健捷博久秀奎康和達三政冬幸幸俊寿貞啓明隆紀公恵貞
 司男雄隆司夫裕司也弘郎郎徹善晃忠典樹吾之弘也郎義男雄夫和雄夫夫一也一雄平文夫

 北兼小岡今市^大18山西並中中柘聖柴滋栗蔵川岡大^大池^大17渡浜寺進嶋柴木木尾^大16吉山前細藤中富柘鈴
 居松倉田津岡本尾河根川成原野林田崎本原谷邊口沢多田戸津関田本田江井澤田野木
 和泰好憲松隆節郁日昌瓊治崇良輝昭憲和和吉雅榮從豊勝一勇哲謨駿武博茂
 夫男博治男治夫夫夫孝一三夫昭彦昭憲夫之夫人利治優道優彦彪治平夫保顕夫治昭司樹勝

 岩持農角竹田蔵青^大20戸吉村宮松濱土寺竹田芝小門小伊脇和山平林西西永中柴坂岡^大19森村西千小栗
 谷田守田本中木田延上川野井井森辺田山平野藤田田崎田村澤田村田野瀬川葉梶原
 克晴義健進二美保秀澄筆利与二隆久孝孝博正博竹雅穂弘達吉友廣紀尚清清喜代
 敏夫文一一郎彰憲延明等誠男治明雄郎徹行照二郎史邦博之夫章学積行修夫典之司正文悟茂司次

 堀深西玉玉田品岸奥稲^大23小柳津脇代村林田島山村水野分阪山田下野田田口口野川尾原井原野田田
 慎靖久辰達良悦和浩信正一真佐利忠伸正敏啓富勝義文勝修克公重善正恵兼
 一純夫司也三夫夫司一男泰行廣志忠夫志修卓彦史守修男司男雄潔三逸美一雄隆三喜三司求

^大藤中高楠川福山永中田香岩石^大25中味松齊河仙伊湧本濱徳田後川加奥一^大24深大松堀野近鯉金大青若
 岡尾橋田久田本田村村山井黒川田永藤江田藤川田保山中藤崎藤村円尾橋田内村藤江森矢木林
 正佳康芳保康哲雅弘和俊一和耕美裕泰修敬勝吉晃恒安重雅淳正秀正治勝典寿武市
 之史彦弘勉夫治典勝昭隆彦郎彦二弘士平三一巳弘夫均男利喜之一之利典久裕良修之雄史郎寛

堀西中田桑奥池吉日濱野竹篠小木大²⁸増野藤土杉小柏太大足溝神木岩²⁷重稻堀近上夏長池²⁶岡安
 田川野中島田下永野口村内田杉元野 田田澤田本松木田村立口田戸崎 田住井森林目 本 本井
 恭元克幸英慶雅純正卓喜敬 祐誠光 義欣芳秀利利 克義浩信憲博博 彦好忠誠莊 幸喜
 史啓廣広彰一之明教二郎二亨司剛宏 人二郎仁彦央勝文朗次悟樹文之 博均仁義一彦次司 博重

舟中鮫山村藤丹神浅和吉横日野島大磯³⁰中飯牧中坂片山太西熊小岩吉鈴酒大緒浅²⁹岡馬服中和宮
 橋村島口上坂羽野野田田江堅村田江野 鹿塚野野根山本田森澤辻間本木井下方見 野場部森田崎
 伸浩寛義雅裕康裕卓昌繁正浩孝大康和 浩 達 妙裕幸和寿真修準教嘉雅俊 茂敬 基 吉
 夫一行明洋宏之善也信喜行久郎輔浩也 哲彦武也徹子之子善夫一司一義登司輔徹 樹夫修雄彰史

小梅鳥桂岡島一森加³⁴北中中高清北今³³居青柳田北水斜酒³²中藤宮難四渡堀福西相³¹松武吉山宗
 山岡本田武津丸島藤 尾村西倉塚野田 田山 邨川上木井 村井崎波方部内田田本 本田岡本友
 真敦雅和俊泰眞 達伸広正 英 早 雅弘正康克康 幸浩省 徳政民 吉孝嘉輝
 示司友也雄幸信明篤 也一幸成徳明淳 智 登二樹義弘彦就 均登平明吾一智実夫男 幹史昭明夫

畑⁴¹山加崎後山木⁴⁰蒔堀竹宮市芦原武³⁹北三松岸竹鈴³⁸小小放永高河荒服³⁷小天³⁶西志能新³⁵穂
 瀬 根納山藤本村 田江内本川谷 田 川井澤野村村 谷川示瀬木合井部 川野 野賀登海 積
 英 康 智 将研 英俊竜淳行耕 直 昌利 正信篤 享 茂敦尚克佳 文 智康英秀 秀
 樹 幹亮之靖之介 郎雄郎司彦司弘樹 樹起進史克史 俊泰樹彦久典伸進 子優 寛仁彦也 明

片⁶²潰石⁵⁹秋⁵⁸湯松中⁵⁷廣野⁵⁶濱⁵⁵梅松⁵³脇⁵²山岡秋⁵¹徳湯⁵⁰井⁴⁹山弥三⁴⁸阪⁴⁷北三森牛青⁴⁵吉⁴⁴
 山 瀧谷 山 浅田島 (根本) 田 田江 岡村山 川浅 上 本田嶋 上 尾橋下島木 村
 裕 祐正 友 友慎智 有 祐大 昌 真和直 喜信 知 理有洋 祐 聡典玲宏聡 慎
 太 二壽 歌 枝佑孝 裕子 香 貴子 輔 之 士哉登 則介 重 恵三平 次 子行香也史 吾

藤⁶⁵松⁵³堀³⁹天³⁶西³⁵中²⁹木²⁷小²²竹西¹⁹進¹⁶川¹¹乘⁹今⁴坂²²本²²寄²²付²²金²²提²²供²²者²²院²²日⁹藤井⁶⁵市⁶⁴篠丹⁶³
 道 江 江 野 野 野 戸 林 森村 北 富 井 上 浪 高 道口 橋 原羽
 哲 大 俊 智 達 博 忠 二穂 従 直 俊 常 尚 美真 次 人哉 太 太茂
 人 輔 雄 優 寛 也 文 志 郎積 道 行 二 清 一

陵水会東京支部年会費納入とご厚志をありがとうございます。

会員お一人お一人のお力添えがあってこそ

陵水会の諸活動は活性化されます。

上記に載っていないお知り合いの方がおられたら

呼びかけて下さい。

今後共、ご支援をよろしく申し上げます。

陵水会 東京支部

エレベーター等、輸送機械の営業、設計、製造、据付
保守サービス、モダニゼーションに関する全業務



守谷エレベーター

ISO9001 認証取得

守谷輸送機工業株式会社

代表取締役社長 守谷 貞夫(大12回)
田村 寿夫(大12回)

本社・第一工場 〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9 TEL(045)785-3111 FAX(045)780-1881
テクニカルセンター 〒236-0004 横浜市金沢区福浦2-15-1 TEL(045)785-3120 FAX(045)785-6420
東京支店 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-12-8八丁堀SFビル7F TEL(03)6228-3460 FAX(03)6228-3350
大阪支店 福岡支店 宇都宮工場 名古屋支店 埼玉事務所 京葉事務所 札幌出張所 上海守谷電梯有限公司

駐車場の総合コンサルティング

NPD 日本駐車場開発株式会社

(東証一部上場 証券コード2353)

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸ノ内ビルディング
〒100-6510 電話 03-3218-1900

ホームページ <http://www.n-p-d.co.jp/>

取締役副社長 川村 憲司(大37回)

自然・お客様・地域社会の“HAPPY”を創出

NSD 日本スキー場開発株式会社

(東証マザーズ上場 証券コード6040)

白馬八方尾根スキー場 白馬岩岳スノーフィールド 柵池高原スキー場
鹿島槍スキー場 北志賀高原電王スキーパーク 菅平高原スノーリゾート
川場スキー場 めいほうスキー場

本社 〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村大字北城 6329-1

ホームページ <https://www.nippon-ski.jp/>

取締役 川村 憲司(大37回)

発行所
〒236-0004
横浜市金沢区福浦1-14-9
守谷輸送機工業(株)
陵水会東京支部 支部長 竹森二郎
電話045(785) 3716
印刷所
〒110-0015
東京都台東区東上野1-28-3
船舶印刷(株)
電話03(3831) 4181

※編集室のメールアドレスは
hysckys@nifty.com
(次号分々切日十月末日)
林 史欣(大8回)
〒164-0014
中野区南台2-15-10
(TEL・FAXとも)
03(3381) 4431

「会報」原稿・情報「送付先

陵水会東京支部

ホームページアドレス

<http://m-p-o.co.jp/tokyoryosui/>